

平成 23 年 7 月 5 日

荒尾市長 前畑淳治 様

日本野鳥の会熊本県支部
支部長 高野 茂樹

渡り性水鳥が生息する荒尾海岸干潟保全のお願い

荒尾市は有明海に臨み、海岸沿いには広大な干潟が広がっています。連続した干潟では日本一の干潟です。海岸には四季を通して多数の水鳥たちが訪れ、特に、シベリア・アラスカとオーストラリア・ニュージーランド間約 12000Km を旅するシギ・チドリ類にとってはエネルギー補給の場所・休息の場として大変重要な飛来地になっています。豊かな干潟に恵まれた荒尾海岸には、シギ・チドリ類の餌であるゴカイ類、カニ類、小型甲殻類など餌になる小動物がたくさんいます。そして、それを餌として多数のシギやチドリ類が訪れます。

有明海を囲む日本野鳥の会熊本県支部、長崎県支部、佐賀県支部、筑後支部は、1997 年から 8 年間にわたって有明海沿岸部に飛来するシギ・チドリ類の調査を実施しました。その結果、荒尾海岸は佐賀県大授揚干潟に次いでシギ・チドリ類飛来の多い生息地になっていることが明らかになりました。

また、環境省が行っている「モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査」では、2008 年春には 6492 羽が記録され、佐賀県大授揚干潟の 7252 羽について全国 2 位の飛来数を記録しています。秋の調査では、1773 羽が記録され、大授揚、北海道風蓮湖、大阪北港に次いで 4 位の飛来数となっています。冬の調査では 2152 羽で全国第 5 位の飛来数となっています。約 15 種のシギ・チドリ類が飛来し、ハマシギは 2500 羽を超し、ダイゼン・オオソリハシシギは約 350~400 羽など大きな群れで飛来します。また、176 羽ものキョウジョシギの群れが見られる場所も他にはありません。

2010 年 10 月に公表された環境省のラムサール条約潜在候補地リストでは、登録基準 9 項目のうち、荒尾海岸は基準 1、2、3、6、7、8 の 6 項目もクリアし、ズグロカモメなどの水鳥のみならず底生生物の上からもラムサール登録の基準を超えています。また、シロチドリ、メダイチドリ、ダイゼン、キアシシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギについては東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ(シギ・チドリ類ネットワーク)の参加基準値も満たしています。

このように、荒尾海岸は渡りをする鳥たちにとって大変重要な場所となっています。つきましては下記の通り、ラムサール条約への登録とともに、東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップの参加につきましても積極的に取り組んでいただきますようお願いいたします。

記

1. 荒尾周辺海岸につきまして、ラムサール条約登録、東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ参加の推進をお願いします。そのため、荒尾海岸県鳥獣保護区の国指定鳥獣保護区指定への取り組みをお願いします。